

「フリースクールカシオペア」ご案内



もうひとつの
未来の創り方！

見学&体験は
初回無料（1時間）
まずはお電話か
メールを下さい。

◆趣旨



◇小人数の刺激の少ない環境、落ち着いて自己表出ができると思える環境で、その子の特性、現状に合わせた学習、レクリエーションを行い、「できた」「わかる」「楽しかった」「たくさん話せた」という小さな成功体験を積み重ねて自己肯定感、自信を育む場所です。ポイントは不安を小さくする環境、対応で、シンプルに学習する点です。

◇お子さんの理解、記憶、運動、コミュニケーションなどの脳内ネットワークが少しずつ発達していくよう、支援します。◇学校、家庭以外の別の居場所をキープすることで、学校生活や、大人への成長に向けて役立てただけなら幸いです。LD、ディスレクシア、ADHD、ASD（自閉スペクトラム症）などの子ども支援します。



◆対象 小学1年生～高校3年生

◆担当 中久木俊之（略歴後述）

◆利用 基本的に1対1（保護者同席もOK）

1回1時間30分（1時間20分と保護者への報告10分）
※子どものコミュニケーション力を育てるなどニーズに合わせて、1対2で行う場合もあります。

◆費用（1か月につき）

1回4,000円×回数+報告書1,000円
欠席のご連絡は3日前までに連絡いただければ振替OK
（個人用教材は別途実費いただきます）

◆開設日時 月曜日、火曜日、水曜日
9:30～11:00 11:00～12:30
13:00～14:30 14:30～16:00 など
利用者に合わせます。
終了時に保護者への報告（お話）10分

◆基本スケジュール
（学習5分、休憩レク5分の例）

10:00 入室 あいさつ
10:05 学習1（5分）
10:10 卓球
10:15 学習2（5分）
10:20 ウノ
10:25 学習3（5分）
10:30 オセロ
10:35 学習4（5分）
10:40 パパ抜き
10:45 学習5（5分）
10:50 卓球
10:55 学習6（5分）
11:00 将棋
11:05 学習7（5分）
11:10 風船バレー
11:15 学習8（5分）
11:20 保護者の方へ本日の報告
11:30 退所

※音読、計算、言葉の意味理解など6回～8回程度、
学習する子は多いです。

◆学習内容 個別対応です。不安、ストレス、学習の負荷、
興味関心で大きく変わります。楽しく終わるようにします。

◇算数の学習（例）

できるところから始めます。余分なことはしないので、思っているよりどんどん進むことがあります。月3回の学習を1年間で、中1から中3までの数学を学習する子がいます。ポイントは、本人の負荷を小さくして、本人が、できた！と思う学習を繰り返して積み上げていくことです。



◇国語の学習（例）

漢字や語彙力を高める学習を、会話をしながら進めます。書き順や単語、短文を音読して確認していきます。コツコツ行い、半年ほどで読みが著しく向上する子がいます。

◆報告書

月に1回、作成します。学校に提出すると、校長先生の判断で、出席日数にカウントされることが多いです。

◆レクリエーション

ウノ、トランプ

などのカードゲーム、ミニ卓球、

キャッチボール、オセロ、将棋、絵を描くなど、
本人が興味あることを行います。気分転換、
おしゃべりを通じて本人を認めることに
重点を置いています。



◆支援で重視していること

本人の意識の集中、モチベーション、記憶の持続、手先の動きなどを観察し、どう使っているかを重視します。学習に注意を向ける力は人それぞれです。

◆持ち物 筆記用具、水筒。電子ゲーム機や携帯電話、スマートフォンは持参OKですが、学習中は使えません。

◆相談および見学・体験

毎週月、火、水の空き時間（メールか電話で要予約）
お子さんとご一緒にお越し下さい。保護者のみのご相談もOKです。初回1時間、無料。

◆連絡先

〒456-0024 名古屋市熱田区森後町7-14 沼田ビル3階
NPO法人子ども支援室カシオペア
電話052-228-0842 FAX052-228-0846
kodomosien@gmail.com 地下鉄神宮西駅①出口徒歩1分
JR熱田駅徒歩5分 名鉄神宮前駅徒歩10分
コインパーキング近隣に多数あり

◆学習支援の考え方

学習とは、脳の情報ネットワークを整え、作ることである。

- 脳をよく働かせるためには、心理的安全性の確保が必須
- 日常生活で承認欲求が満たされていない場合、別の誰かに認めてもらう環境をキープすることが必要である。
→アサヒキャンプ名古屋の行事に参加して、大学生の支援を定期的に受けるなど
- 脳の意識の安定、切り替えをスムーズに行えるよう促す（デフォルト・モード・ネットワークの安定と切り替え）

◆中久木の研修

課題（タスク）を行うためには、意識（タスク・ポジティブ・ネットワーク）を課題実行のために切り替える必要があり、この切り替えが学習支援のポイントであるという立場から支援しています。その根拠は海外の発達障害関係研究者の講演動画です。

□大切なこと

フリーズさせずに、スモールステップで何回も作業する。繰り返すほど、脳内ネットワーク回路は整備される。身体が大きくなる中学生頃に大きく伸びることが多いので、地道に小学校時代の心理的安全を確保して成長を待つ。

□利用回数について

月2、3回の利用の子が多い。学習を進めるのであれば月3回以上が望ましい。居場所中心であれば月2回でOK。

□個別対応

個別対応です。お会いして少しずつ対応を変化、修正していきます。

事例1 小学低学年 音読

できる範囲で音読。疲れたらすぐ休憩、カードゲームなどで気分転換。母親同伴もOKです。半年ほどで著しく音読、学習意欲が改善する子がいます。

事例2 小学低学年 漢字を覚える

書き順を唱えることで書き順を覚え、書くこと読む

ことが少しずつできるようになり、語彙力が向上する子がいます。

事例3 小学中学年～中学生 特定の興味のある話

特定の興味のある話を話し続けることもOK。名鉄、ドラゴンズ、レゴなど。少しずつ話の焦点をずらして対応させていただきます。

事例4 小学高学年～中学生 算数がわからない

小3、小4のあたりで算数がつまずいている子は多いです。マンツーマンの指導だと、理解していく子がいます。地道にわかるところから行きます。

事例5 小学高学年～中学生 言葉の概念を整理

言葉、熟語の意味の理解が不十分な子は、言葉を少しずつ、読み、書き、意味の確認をしていきます。文章題を解くための前提条件のひとつです。

事例6 小学高学年～中学生 切り替えの難しい子

切り替えの難しい子は、まずは興味をもってできることから始めます。本人の様子を見て、切り替えのタイミング、別の作業の提案を行います。

事例7 小学高学年～中学生 会話して学習が進む子

会話をしていると、不安感や気になることが減少し、学習が進む子がいます。遠慮なくおしゃべりしながら学習します。

事例8 小学高学年～中学生 お腹が痛くなりやすい子

朝は苦手な場合が多いので、午後の時間帯を提案。本人の調子のよい状態に合わせた対応をします。

事例9 計算の苦手な小中学生 負荷を下げて計算

筆算の計算の手順が、負荷がかかりすぎる子は、負荷を下げて計算する方法を試します。実際に足し算、筆算ができるようになった子がいます。

事例10 高校生の不登校

高校で不登校になり、来た子もいます。本人の気持

ちが休まり、落ち着き、タイミングを見て、一緒に今後について考え、大学に進学した子がいます。

中久木俊之 略歴

1988年～2006年、朝日新聞厚生文化事業団にて、発達障害や不登校の小中学生が自己肯定感を育てる「アサヒキャンプ」を担当。2007年NPO法人アサヒキャンプ名古屋を立ち上げ、事務局長。小5での学校宿泊学習に向けて、大学生多数がサポートして親元を離れる練習になる1泊キャンプなどを行っている。

2010年から2024年まで「特別支援教育支援員養成講座」を29回開催。

フリースクールは2015年4月開始。細かく観察し、本人がフリーズしないよう、その子に合わせたスモールステップを行い、本人の承認欲求を満たしていく手法をとる。

自己肯定感、意欲を高めて学習すると大きく成長していくことを子どもたちから学んでいる。最近では発達障がい関係の海外の講演動画から学んでいる。

◆問い合わせ

まずは電話かメールをいただくと幸いです。次の項目を教えていただくとありがたいです。

◆お名前（ふりがな）

◆学校名 立 小学校・中学校

学年 年 組（通常学級・特別支援学級）

◆保護者氏名 ◆保護者携帯番号

◆住所 〒 -

◆自宅 TEL - -

◆メールアドレス

◆問い合わせ内容

相談 見学 体験 その他

◆相談内容 お子さんの現状と保護者の思い
ご自由にお書きください

◆希望日時 第1希望 月 日（ ） 時